

体育を教えることが好き！という学生を育てたい

体育は苦手でも教えるのは好きという先生はたくさんいます

授業を考える

今、学校ではこういった授業が求められているのでしょうか。まずはここから考えていきたいと思います。こういった授業をしたい、こんな授業をしたら面白いかも。そういった思いを、求められている「授業像」の方向に持っていかたいですね。この研究室では、体育という教科を中心に、授業形態ついて考えていきます。



クラウド型教育支援システムを用いた反転学習

学校で行われる授業を核に据えてみましょう。昔は、学校で行われる授業を補完するために、予習をしてきました。字の如く「予（あらかじめ）め習う」ということです。現在はこの予習はさらに発展し、「反転学習」として行われています。私が担当する大学の講義のほとんどにこの反転学習を導入しています。この反転学習はクラウド型教育支援システムを用いて行います。自宅でこの反転学習をして、そこで学んだことをさらに発展させるのが学校での授業というわけです。



振り返り（省察）

学校での授業を終えると自宅で復習をしますね。これは今でも変わりません。ただし、私の講義ではその方法を今風にしています。先の教育支援システムを用いて、講義で使ったコンテンツをもう一度見るができるようにしたり、授業の様子を撮影した映像を自宅で視聴できるようにしたりといった、学びの振り返りができる学習環境を整えています。



学びを实践に

このような学習環境を現場での学校の授業に生かすことはでき：



でしょうか。「反転学習—授業—振り返り」を一つのセットとして捉えると、学びの形態が出来上がります。大学で経験した授業形態を現場の授業に応用していくという試みです。では、具体的にはどうすればよいのでしょうか。それをこの保健体育科教育研究室で一緒に考えてみませんか。たとえ体育が苦手だとしても、このような授業形態を用いればいい体育の授業ができるようになります。